

今年もおかげさまで大盛況 ～上津江産業文化祭スタッフ集～

上津江地区の総力を結集したイベント、「第11回上津江産業文化祭」が11月23日に開催され、上津江内外から多くの来場者で賑わいました。今号は会場の様子を写真でご紹介!



藤蔭高校吹奏楽部



大抽選会



特別ゲストは大沢桃子さん



すぎっ子こども園



津江中音楽部



豆生野神楽



バザー



展示



津江小太鼓演奏

地域の魅力をアピール 【上津江ファンクラブ第1回】

福岡都市圏の女性に上津江の魅力をアピールし、応援団となってもらおうと実行委員会が結成され、これまで準備を進めてきましたが、その最初の活動が11月28日と29日の1泊2日で開催されました。福岡市や北九州市などから集まった11名の参加者がフィッシングパークでの魚釣りに郷土料理作り、展示林散策やオートポリス体験走行など、ここ上津江ならではの体験を満喫しました。今後も継続して活動していく予定となっています。

オートポリス



懇親会にて



吉の木の展示林

上津江公民館だより12月号

発行 日田市上津江公民館

上津江町の人口 (H27.11.30 現在)

人口	866人
男	414人
女	452人
世帯数	384

上津江の特産品®

ひたぎすかん

平成28年日田市成人式のご案内

1月10日(日)、日田市民文化会館(パトリア日田)にて成人式が開催されます。今年は現時点で671名、上津江地区では7名が新成人となります。市外にお住まいの方も参加できますので、希望者はお早めに公民館へご連絡下さい。なお当日は午前10時に受付開始、11時から式典、12時以降に地区毎の写真撮影となります。

自治会別成人者数

・川原	2名
・都留	3名
・上野田	1名
・市外在住	1名
計	7名



季節の歌
数ふればわが身につもる年月を
送り迎ふと何いそぐらん
平兼盛

日田市上津江公民館
電話 55-2043 FAX 55-2728



現在、鋭意製作中！ ～津江弁日めくりカレンダー～

イノシシ捌いてみませんか？ 【男の料理教室募集中】

先月号でも募集をしました「イノシシ捌き教室」、参加の申込と食材捕獲のタイミングの関係で現在準備中となっています。興味のおありの方はまだ間に合いますので、急ぎお申込み下さい。この機会に如何？

私たちの住む津江の言葉は、日田市の一部とはいえ小国や菊池など隣接する地域の影響もあり、日田弁ともまた違った味わいがありますが、現在では年配の方を除くとあまり使われていないように見受けられます。しかし言葉もまた地域の文化財であり、大切に受け継いでいかなければならないものです。上津江公民館では今回「津江弁活性化企画」として「津江弁版世界の名言 日めくりカレンダー」を作り、年明けを目安に世帯配布を予定しています。ぜひお手元に置いてもらって、お手すきの時にでも津江弁でお送りする世界の名言を楽しんでいただければ幸いです。



只今、名言を
津江弁に翻訳中

公民館も応援します♪ ～毎月第3日曜日は「家庭の日」～



大分県では青少年の健全な育成に関し家庭の果たす役割についての理解を深めるために、毎月第3日曜日を「家庭の日」に定めています。また、日田市でも先日開催された第34回日田市青少年健全育成大会において、【第3日曜日の「家庭の日」を核として、温かく、思いやりに満ちた対話とふれあいを大切にする家族ぐるみの子育てを積極的にすすめる。】と大会宣言されています。上津江公民館も家庭教育支援の一環としてこの「家庭の日」を応援していく予定です。

上津江の文化財⑮ ～永野の観音堂と殿様屋敷～

上津江町永野地区と中津江村黒谷地区の境に「四ツ城」と言う山があります。昔、前津江町大野の雪ヶ嶽城を本拠地として26代485年の間、この一帯を支配した津江殿(どん)こと長谷部氏の長谷部信雄が延元3年(1338年)、今から670年程前にこの地に「四ツ城」と云う城を築き一族の武将(矢野氏)を配置し、この地域の守りとしていました。矢野氏は四ツ城の登り口にあたる永野に住んでおり、その屋敷を「殿様屋敷」と呼んでいたそうです。その後、殿様屋敷も度重なる火災で焼失していますが先祖が兜(かぶと)に入れ持って来たと伝えられる、一寸八分の観音像が残存していたと27年前に発行された「上津江の文化財」で知り、今回永野の観音堂を訪ねてみました。永野地区も今は3軒となり過疎が進んでいますが、観音堂は古いながらも掃除が行き届き、本尊である彩色された観世音菩薩像は年月を感じさせる佇まいで、天満天神さまと歳の神さまとの合社になっていました。しかし一寸八分の観音像の姿は見当たらず残念に思っていた所、梶原昭子さんから矢野栄子さんを紹介いただき訪ねてみると



永野の観音堂

「ありました！、神棚に小さく、祠も綺麗なまま祀られていました。このような小型の仏像は念持仏(ねんじぶつ)といわれ、移動に適した形態となっています。津江殿長谷部氏は延宝4年に滅んでいきますので、少なくとも今から339年以上も前に長谷部氏から伝わった観音像となります。今は「火伏せの観音さま」として矢野家の家宝となり家人を見守っています。(古閑)



一寸八分の観音像